進捗報告報告書（資金分配団体）

● 提出日　：2022 年 11 月 2 日
● 事業名　：子どもの未来のための協働促進助成事業～不条理の連鎖を癒し、皆が共に生きる地域エコシステムの共創～
● 資金分配団体　：認定特定非営利活動法人エティック

1　実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
①採択地域の子どもの支援者（家族・関連組織・市民等）のネットワークが形成	①ネットワークされている支援者の数（必要な支援者が含まれているか） ②ネットワークされている支援者の質（信頼関係等）	①各地域・領域における必要な支援者がネットワークに参画されている ②ネットワークに参画している支援者による協働のプラットフォームが創出され、信頼関係が構築されている	2021/03/01	①5 団体において、活動地域・領域における支援者によるネットワークの構築（行政等活動領域において必要な主体含め）は助成開始前から一定進んでおり、助成期間内でより参画・推進が進んでいる（以下例）。 － 自治体からの助成金が新たに支給 － 民間企業、行政との協働 － 地元新聞社者との基金の継続推進 － 市の「協働事業提案制度」に採択 ②5 団体において、円卓会議や基金、学習会など、公式性を持つ協働プラットフォーム母体が既に立ち上がっている。いずれのネットワークにおいても、官民各主体のリーダーや職員など、多様な人材を巻き込み関係深化が進み、交流・連携を重ねる中で率直に議論を交わし合える関係醸成が進んでいる。	2
②子どもの課題に関する共通理解や意識の変化が進む	①定量・定性データに基づき、課題の構造が適切に理解できているかどうか（調査レポートの有無、理解度など）	①定量・定性データに基づき、課題の構造が適切に理解できている状態（当初は完璧でなくとも、適切な仮説の把握であれば良い）	2022/03/01	①全実行団体で、課題構造理解のための調査や勉強会の動きが行われている（以下例）。 － 学校を対象とした子どもの状況調査（独自調査） － ヤングケアラーに関する調査（ネットワークとしての調査） － 行政・専門家を巻き込んだ自治体別支援力調査 － 企業連携の地域資源マップづくり － ユースを対象とした意識調査の実施	2

	②課題の構造について、異なる立場の支援者間で共有されているか	②課題の構造について、異なる立場の支援者間で共有されている状態		②3 団体においては、調査により明らかになった課題構造に関して、レバレッジポイント（構造変革に重要な点）となりうる他主体も巻き込み、共有・対話の動きが見られた。 - 地元新聞と共催の活動報告会を実施し、新聞見開きに子どもの課題に関する統計データ等の情報発信を行った - 市の「協働事業提案制度」に採択され、2022 年度より正式に協働事業として子ども政策課と実施 - 市長や子ども支援担当課、教委等と定期的な実際のケースを事例とした支援の流れの見直し実施の中で、協働主体内の構造理解と改善を行ってる	
③子どもの課題の解決に向けた共通ビジョンの形成	①子どもの課題の解決に向けた有効・適切なビジョンが存在するかどうか ②ビジョンが関係者間で共有されているかどうか	①子どもの課題の解決に向けた有効・適切なビジョンが存在する ②ビジョンが関係者間で共有されて、オーナーシップが育まれている	2022/03/01	①3 団体において、ネットワーク内のビジョンミッションや取り組み等の方針は存在するが、アウトカムやネットワークの役割、大事な価値観等、子どもの課題解決に向けたロジックモデルや存在定義等は確立・合意できていない。1 団体においては、ネットワーク内でのビジョンの言語化まで成熟していないが、世界観・方向性としては認識されている。 ②3 団体においては、環境の変化やネットワークの広がり・役割の変化に伴い、関係者間におけるオーナーシップ・共同責任意識の醸成が進み、ビジョン達成のための戦略の見直しや、体勢変更が進められている。	2
④子どもの課題の解決の進捗をモニタリングするため適切な測定指標の合意と、モニタリングの実施	①課題認識や共通ビジョンを踏まえた適切な測定指標の合意 ②モニタリングのための仕組みの構築 ③指標の達成に対する責任の共有（Shared Accountability）	①課題認識や共通ビジョンを踏まえ適切な測定指標が合意されている ②モニタリングのための仕組みが構築されている ③指標の達成に対する責任が共有されている	2022/03/01	①②③いずれも、全実行団体において、課題構造に対するネットワークとしてのアウトカムは確立・定着していない（2 団体においては測定指標は未設定かつ、4 団体では見直しの最中）。そのため、連携機能（円卓会議、基金など）がどのように子どもの課題解決に貢献したか、評価する指標やモニタリングの仕組み、責任所在のについての議論はまだされていないとみうける。	3
⑤協働プロセスにおける PDCA サイクル： 評価・学習が行われ、それぞれの活動が適切に調整・見直しされ、必要な連携が起きる状態	①共通ビジョンや測定指標に基づく評価・学習が適切なタイミングで行われているかどうか ②それぞれの活動が適切に調整・見直しされ、必要な新しい取り組みや連携が計画・合意されているかどうか	①共通ビジョンや測定指標に基づく評価・学習が適切なタイミングで行われている ②それぞれの活動が適切に調整・見直しされ、必要な新しい取り組みや連携が起きている	2023/03/01	①②アウトプット④と同様、全ての関係者の間で共通ビジョンが合意される段階の前にあるため、協働プロセスにおける PDCA サイクルを回す段階にあるとは現時点で言い難い。 一方で、2 団体においては、ネットワーク内のメンバーとして独自に学習を深めながら、改善に向けた取り組みを展開している（以下例）。 - ネットワークにおける測定指標に関する勉強会を開催 - ネットワーク内におけるリファーラルの流れの改善	3

⑥深刻で不条理な状況にいる子どもにとって好ましい変化をもたらすように、既存の活動の改善や新しい活動への取り組みがなされている	①学習プロセスを通じて、新たに始まった取り組みがあるかどうか ②学習プロセスを通じて、既存の活動に何らかの改善が見られたかどうか	①新たなサービスが開発・展開されている ②既存の活動が何らかの形で改善・見直されている	2023/03/01	①3 団体で、ネットワークの推進を通じてた新たなサービスや取り組み開発に向けた動きが展開されている。 - 新たな支援拠点の開設 - サポート人材の育成 - 妊娠葛藤相談に関する地域事業 ②2 団体で、既存プロセスの改善に取り組んでいる。 - ケース会議の改善 - 団体内で戦略会議を組成し事業戦略の見直し協議を行う	2

【非資金的支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
①「チェンジ・エージェント機能（主に実行団体が担う。適宜他の協働主体も含む）」と資金分配団体のコミュニケーションが深まる	①常時あるいは定期的なコミュニケーションがある実行団体の数 ②常時あるいは定期的なコミュニケーションの質	①②実行団体が確定してから設定 →①定期面談や現地訪問などを通じたコミュニケーションが行われている →②定期面談や現地訪問などで、事業進捗と共に、地域エコシステム醸成に向けた実行団体の課題が取り扱われている	2021/03/01	①全実行団体において、定期面談や現地訪問など、恒常的なコミュニケーションが継続されている。5 件の実行団体では、団体またはネットワーク内の連絡ツールや会議体に参画するなど、密な情報共有がされている。 － 戦略会議への参画（オンライン月 1） － 実行団体内の伴走支援チームのキャパビルとして、月に 1 回の伴走支援会議に対面参加 － コンソーシアムのプロジェクト 1 リーダーを務め内部で伴走 － プロジェクトのネットワーク会議への参画 － 団体理事メンバーとの対面会議の実施 ②3 団体において、重要な案件に関する相談や連携が発生するなど、関係性の深化が見られる。（以下例） － 本事業の中長期アウトカムを見据え、別事業での連携に関する相談 － 資金分配団体の事業統括が企業向け連携アワードの審査員として参画 － 次年度の資金調達に向けた助言や協働可能性に関するディスカッション それ以外に、全実行団体において、ネットワークを促進するための取り組み・課題について双方に議論している。事前評価時から継続的に活用しているアセスメントツール等も利用しながら、団体との対話を深めている。	2
②「チェンジ・エージェント機能（主に実行団体が担う。適宜他の協働主体も含む）」に対して必要なサポートが提供される	研修会の実施や助言の回数等、実行団体に対して行ったサポートの回数および質（ニーズに沿った適切な内容だったか）	実行団体が確定してから設定 →実行団体の事業進捗度合いやニーズに応じて、必要なインプット（知識、ノウハウ、ネットワーク等）が提	2021/03/01	・2022 年度上期においては、実行団体のニーズに合わせて以下のようなインプットを提供した。 － 子ども NPO センター福岡を例としたコレクティブインパクト勉強会（全実行団体） － 発展的評価に関する学習会 － プロボノマッチング参画における伴走	2

		供されている		- ファンドレイジング実装における伴走 - 実行団体間で支援アドバイザーとしての協力 ・伴走コーディネーターによる伴走方針・計画アップデートのため、実行団体を含む子ども領域・地域連携の分野での知見を有する実務者を招へいしたバーチャルボードミーティングを開催（招へい専門家は以下の通り） - 特定非営利活動法人まつど NPO 協議会 理事 阿部剛氏 - - Learning for All 代表 李 炯植氏 - NPO 法人エティック ローカルイノベーション事業部 山内 幸治	
③「チェンジ・エージェント機能（主に実行団体が担う。適宜他の協働主体も含む）」が本事業終了後も持続・発展していくための資金調達面でのサポートが提供される	助言の回数やネットワークの紹介等、実行団体に対して行ったサポートの回数および質（ニーズに沿った適切な内容だったか）	実行団体が確定してから設定 →実行団体の個別の課題や状況に応じて、必要なインプット（情報、ノウハウ、ネットワーク等）が提供されている	2023/03/01	・各実行団体で、ネットワークの継続に向けた資金調達の取り組みが行われている。定期面談における壁打ちのほか、関連情報の提供、広報拡散の支援などを行なっている。 - ネットワーク内のファンドレイザーに対し、ファンドレイジング戦略の構想のための伴走を提供	2

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
状況をプルダウンより選択してください▼ ＊進捗状況：2 計画どおり進んでいる
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値

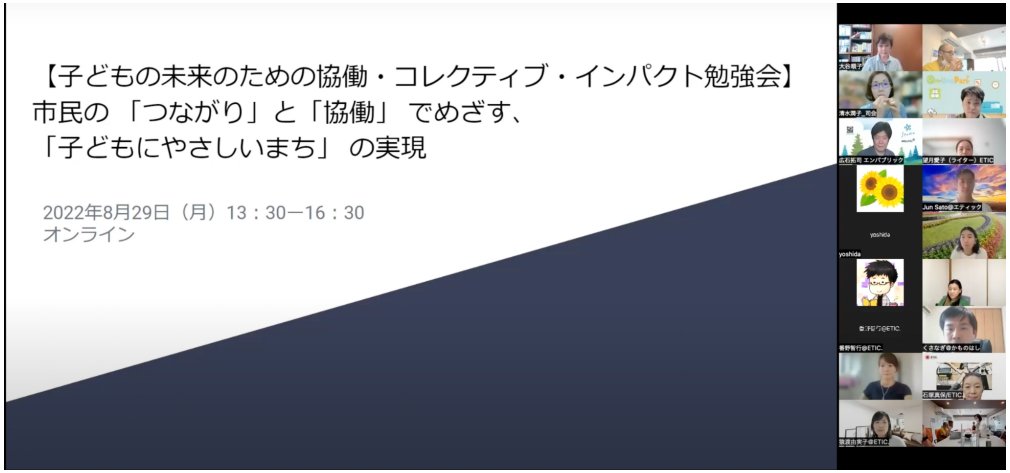
6.(任意)非資金的支援の活動に関する報告
【全団体対象】 ● 子ども NPO センター福岡を事例としたコレクティブインパクト勉強会 　　○ 講師：子ども NPO センター福岡 前代表理事 大谷順子氏 　　○ モデレーター：株式会社エンパブリック代表取締役 広石拓司氏 ● 上記勉強会の記事発信によるナレッジシェア 【個別伴走企画】 ● 発展的評価に関する学習会（松戸） 　　○ 講師：Tamarack Institute Mark Cabaj 氏 ● プロボノマッチング参画における伴走（岡山） ● ファンドレイジング実装における伴走（小豆島） ● メンターによる現場訪問・メンタリング 　　○ 訪問者：ケア・センターやわらぎ 代表理事　石川 治江 氏 ● プライドハウス東京のビジョン・目標・体制変更の見直しにおける伴走（グッドエイジングエールズ） ● 岡山 NPO センターが推進する地域支援力調査における、LFA 李さんを専門家として紹介（団体間交流） 【伴走チームのキャパビル】 ● 伴走コーディネーターによる伴走方針・計画アップデートのため、実行団体を含む子ども領域・地域連携の分野での知見を有する実務者を招へいしたバーチャルボードミーティングを開催（招へい専門家は以下の通り） 　　○ 特定非営利活動法人まつど NPO 協議会 理事 阿部剛 氏 　　○ Learning for All 代表 李 炯植 氏 　　○ NPO 法人エティック ローカルイノベーション事業部 山内 幸治

2　広報に関する報告

1.　シンボルマークの使用状況
☑**自団体のウェブサイトで表示している**　□広報制作物に表示している □報告書に表示している　□イベント実施時に表示している　□その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
2.　広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） 2.広報制作物等 ● 子どもにやさしいまち」をめざすネットワークと協働【子ども NPO センター福岡 20 年のあゆみ:前編】 　○ https://drive.media/posts/34800 DRIVE / ドライブ by ETIC. ● 「子どもにやさしいまちづくり」に向けた協働の現場の今とこれから【子ども NPO センター福岡 20 年のあゆみ : 後編】 　○ https://drive.media/posts/34826 DRIVE / ドライブ by ETIC. ● Systems leadership to eradicate intergenerational inequalities: KOTOMO FUND as a collaborative approach to support children and families in Okayama Prefecture 　○ https://medium.com/@ETIC./systems-leadership-to-eradicate-intergenerational-inequalities-kotomo-fund-as-a-collaborative-847a2061aab3（ETIC インターナショナル） 3.報告書等 4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等）

添付資料

活動の写真（画像データは 1 枚 2 MG 以下、3～4 枚程度）



子ども NPO センター福岡を事例としたコレクティブインパクト勉強会の様子

10/11 プライドハウス東京レガシー2 周年記念パーティーの様子